

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強じんな気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（目指す児童像）◇

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 自ら学びくふうする子ども | （考える） |
| 2 元気でがんばる子ども | （鍛える） |
| 3 礼儀正しく思いやりのある子ども | （思いやる） |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

合言葉 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」 ～考える 鍛える 思いやる～

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気のある学校づくりが重要である。そのためには、次の学校像を目指す。

- 目指す学校像1 「子どもが楽しく学び、居がいを感じる学校」
目指す学校像2 「教職員が協働し、指導力を発揮する学校」
目指す学校像3 「保護者・地域から信頼される、魅力ある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- （1）常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。
- （2）職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育にあたり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」を継続的な推進を図るとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- （3）○地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成

2nd stage ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- （1）本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに栃木県教育振興基本計画2025や「宇都宮市第2次学校教育推進計画後期計画」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- （2）本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、「学校マネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら、地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- （3）地域と連携しながら全教育活動を有機的に関連させ、「深い学び」を実現することを目的としたカリキュラムマネジメントを働かせる。また、モジュールの有効活用等により、確かな学力を身に着けるための適正な時数の確保に努めるとともに、子どもと向き合う時間を確保するための業務改善を図る。その際、学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- （4）児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ・児童生徒にとって楽しく居がいのある笑顔あふれる学校づくり（清央 PRIDE） ○小中一貫教育カリキュラム（４３２制カリキュラム）の実施 【学 習 指 導】 ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～課題や目的に応じた一人一台端末の効果的な活用について～ 【児 童 生 徒 指 導】 ・時と場に応じて、自ら進んで元気よくあいさつができ、思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・授業のねらいを明確にし，考える時間を確保したり，授業形態を工夫したりするなどして，児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・グループ学習で話し合い活動を積極的に取り入れることで，自信をもって発表したり，意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで，学習意欲を高め，学習内容の定着を図る。 ・学年だよりやHP等で児童の日々の学習の様子を掲載し，保護者に発信していく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は，児童が90.4%，教職員が100%，保護者は91.6%で数値指標を上回った。 ・今年度は，グループ活動や話し合い活動が，通常の学習形態に戻ってきたので，児童の学習意欲が高まってきたと思われる。 ・学校だよりで，児童の学習の様子を随時発信しているため，保護者にも学習の取り組みの様子が伝わったのではないかとと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き，授業のねらいを明確にし，考える時間を確保したり，授業形態を工夫したりするなどして，児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。 ・引き続き，グループ学習で話し合い活動を積極的に取り入れることで，自信をもって発表したり，意欲的に学習に取り組んだりできるように支援する。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで，学習意欲を高め，学習内容の定着を図る。 ・学年だよりや学校だよりで児童の学習の様子を掲載し，保護者に知らせる。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の 肯定的回答90%以上	・清掃活動や学校行事などに縦割り 班活動を積極的に取り入れ、上級生 が下級生の面倒をみる場を設定す る。また、清掃班編成を2回とし、 交流の機会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連 を図り、思いやりのある豊かな心情を 育む。また、思いやりと感謝についての 生活目標を設定する回数を増やし、児 童への意識付けを行う。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、 保護者が97.2%、地域が92.9%で数値 指標を上回ったが、児童が89.8%で下 回った。 ・清掃班の編成を2回にすることで、同 一児童が活動することで、意思疎通を図 りやすい集団になり、効果が感じられ た。 ・生活目標の設定を行うことで、児童へ の意識づけを行ってきた。 A 【次年度の方針】 ・取り組みを継続し、交流や認め合う機 会を充実させる。また、帰りの会等での 発表の機会を生かし、「助けられた場面」 を発表するよう促すことで、親切にされ たことに感謝できるよう指導していく。 ・道徳の授業や教育相談等の機会を捉 え、活動のふり返りをする等、自分のさ れた親切、自分がした親切を意識でき るよう促す。 ・ふわふわ言葉、ちくちく言葉の取組を 行い、意識づけの機会を増やす。
	A3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答85%以上	・児童が活躍する場を工夫したり、実 情に応じて児童が活動できることを 提案したりするように努める。 ・夢いっぱいプロジェクトに具体的 な内容を盛り込んだ目標を設定し、そ れに向かって取り組む態度を育て、報 告会で、自分ができるようになったこ とを実際に披露する機会を設け、テレ ビ放送で流す。 ・学級で、自分の目標を発表する時間 を作り、他の児童がどんな夢に向かっ て頑張っているのか知り、応援でき るようしていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が87.4%、 教職員が100%で数値指標を上回った が、保護者は83.7%でやや下回った。 ・コロナ禍が明け、昨年度よりも音楽朝 会や、学級自慢集会など、児童の活躍 する場が増えた。児童が協力し合いなが ら取り組む姿が見られた。 B 【次年度の方針】 ・児童が活躍する場を工夫したり、実情 に応じて児童が活動できることを提案 したりするように努める。 ・行事に関しては、学年だよりや、HP などで情報を発信していく。 ・夢プロジェクトに具体的な内容を盛 り込んだ目標を設定し、それに向かっ て取り組んだことを報告する場を設ける。
1ー(3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の 肯定的回答90%以上	・保護者や地域のスクールガードと 連携を図りながら、児童が健康安全を 意識した行動を習慣化できるように させる。 ・指導に関する環境を整えたととも に、むし歯予防への意識を高めてい く。 ・保健便りなどの各種便りについて、 さくら連絡網を活用し、保護者に情報 を発信していく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が91.9%、 教職員が100%、地域が100%で数値指 標を上回ったが、保護者が89.3%で下 回った。 B 【次年度の方針】 ・今後も保健便りなどの各種便りにつ いて、さくら連絡網を活用し、保護者に 情報を発信し、連携を図っていく。 ・児童が健康安全を意識した行動を習 慣化できるような指導を充実させる。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答90%以上	・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、具体的に数値化することで、目標を明確にし、より高い目標に向かう児童の姿を目指す。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、学級担任が助言を行う。 ・高学年としての意識をもつことができるよう、上級生と下級生が関わる場を増やす。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が90.1%、教職員が95%で数値指標を上回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する喜びを味わう機会を得ることができた。昨年度の指数を上回り、さらなる自己肯定感の高まりにつながった。 【次年度の方針】 ・個人だけでなく、学級全体、児童会活動などにおいても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流を通して、自分のよさや成長を実感し、生活をよりよくできるように言葉かけをする。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答90%以上	・情報委員会と連携し、給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が95%で数値指標を上回ったが、児童は89.5%でやや下回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 ・校内に英語の掲示物を設置し、触れる機会を作った。 ・2学期からであってが、給食時に英語の歌などに触れさせたことで英語に親しむ機会が増えた。 【次年度の方針】 ・情報委員会に協力を依頼し、給食時に英語の歌などに触れる機会を定期的に設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・生活科や社会科、「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深めることができるようにする。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。 ・給食の献立について、郷土料理などの提供回数を増やし、地域の食材や料理を児童に周知していく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が88.6%、教職員が95%で数値指標を上回ったが、保護者は74.2%で下回った。 ・保護者の肯定的回答は、80%には達しないものの、昨年度の数値より大幅に上回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習で、清原の教材を活用した学習を展開した。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合や宇都宮学等で清原の豊富な地域の教材を活用する授業計画を立て、実践できるようにする。

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答85%以上	・校内読書週間を実施し、本に触れる 機会を確保し、各教科での調べ学習等 にも活用するなど、自分が興味ある種 類の本以外も積極的に読めるように 促す。 ・校内研修で学んだことなどを授業 に生かして、タブレットを活用する機 会を更に増やし、コミュニケーション のツールとしても有効に活用してい く。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が88%、教 職員が100%、保護者は86%で数値指標 を上回った。 ・授業において、ICT機器の活用が浸 透してきた。 【次年度の方針】 ・引き続き、ICT機器や図書等に触れ る機会を多くするだけでなく、研究授業 等を実施することで、それぞれのよさを 生かしながら新しい活用方法を考えて いく。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・児童会活動が何につながったのか を明確にするために各種便りに結果 を掲載したり、校内放送で周知したり することで共通理解を図る。 ・物を大切にする心を育むために、物 への記名や委員会の啓発ポスターな どを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可 能な社会」についての資料を把握して おき、指導に生かせるようにする。 ・児童からの啓発ポスター等の活動 ができるようにする。 ・給食の残食量について、児童・教職 員に認知してもらえよう取組を 行う。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が86.2% で数値指標を上回ったが、保護者は 75%でやや下回った。 ・「ナルクの会」とのどんぐりの育成活 動や美化委員会の「アルミ缶回収」や、 給食委員会の「牛乳パック回収」などを 通し、環境への意識や思いやる心を高め た。 ・総合的な学習の時間や道徳で、環境に 対する意識を高めた。これからできるこ とを考えるとともに、福祉への理解も深 めることができた。 ・給食委員会が、給食の残食を減らすた めの取り組みとしてリクエスト給食を 実施した。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して、実施した活動が何 につながったのかを明確にするために HP等に掲載したり、校内放送で周知し たりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にする心を育むために、物へ の記名や委員会の啓発ポスターなどを 活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能 な社会」についての資料を把握してお き、指導に生かせるようにする。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・校内支援委員会、月1回の情報交換 会等を通して、管理職・学年の教員・ 教育相談担当教員・特別支援担当教 員・SC等、と連携・協力して児童一 人一人のニーズや悩みを把握して早 期発見、解決に努める。 ・継続的に組織的な対応を行い、情報 の共有・引継を確実に行う。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100% で数値指標を上回った。 ・校内支援委員会、月1回の情報交換会 を機会に、教職員全体で情報を共有す ることができた。 ・事案に対して学校全体で早期に対応 することができた。 【次年度の方針】 ・取組を継続し、チーム学校としての意 識を高く維持したり、月に1回の児童指 導の情報交換時に、配慮児童に対する支 援方法のスキルアップを共有したりし て、児童の求める・必要とする対応を適 切に行う。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	・いじめゼロ強調月間の活動でいじめゼロ標語を作成する際、保護者と共に作成することとし、クラス代表作品を校舎内に掲示し、保護者にも知らせる。 ・道徳の授業参観等を機会に、学校での指導を保護者に積極的に発信する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が97.9%、教職員が100%、地域が85.7%で数値指標を上回ったが、保護者が82.9%で下回った。 ・いじめゼロ標語作成を保護者とともに行うことにより、保護者への発信を行うことができた。 A 【次年度の方針】 ・取組を継続するとともに、十分に保護者への発信をするために、さくら連絡網、学年だより等を利用し、校内の取組を積極的に発信する。 ※クラウドを活用した生活アンケートを年間6回実施する。 ※教育相談の実施・生活アンケートの実施などを知らせる。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・担任、学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。 ・教育センターやスクールカウンセラー等との連携を深め、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを更に充実させていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が95.2%、教職員が100%、数値指標を上回ったが、保護者が89.7%でやや下回った。 ・スクールカウンセラー等との連携を意識して当該児童への対応を学校として行うことができた。 ・教職員で情報の共有が図られ、担任に偏ることなく、それぞれの場面でチームでの対応をできた。 B 【次年度の方針】 ・市の教育センターから配信されている「カスタネット通信」を参考に、児童への対応について保護者の理解も得られるよう努める。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答95%以上	・「夢いっぱいプロジェクト」の実践を通して、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会活動等を通して良好な人間関係づくりに努め、より主体的に人と関わる力を醸成していけるようにする。また、「学級自慢週間」などの機会を通して、クラスとしてのまとまりを強めるような取組も推進していく。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が95.2%、教職員が100%、地域が100%で数値指標を上回ったが、保護者が89.7%で下回った。 ・「夢いっぱいプロジェクト」の推進・実践により、一人一人の自己肯定感の向上に努めた。 B 【次年度の方針】 ・「夢いっぱいプロジェクト」の実践と良好な人間関係づくり、より主体的に人と関わる力を醸成していけるような機会を充実させる。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に発信し、理解を深める。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。 ・個人懇談や学級懇談会の折に、保護者からの要望を聞くようにし、学習指導に生かせるようにする。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が97%、教職員が100%で数値指標を上回ったが、保護者が87.2%で下回った。 ・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援するよう努めた。 B 【次年度の方針】 ・朝のモジュールの時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当等と、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	・個々の役割と責任を明確にした上で、複数配置による主務者の負担軽減、相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT、ICT支援員等の学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、で数値指標を上回った。 ・今年度も個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 B 【次年度の方針】 ・今後も引き続き、学校に関わる業務を職員全員がチーム一丸となり、協力して業務に取り組んでいく。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答85%以上	・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続し、業務改善の意識を高めていく。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得るとともに、ボランティアの協力による支援も含めた業務の効率化を進めていく。 ・自己研修日を設け、自己研鑽に努める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が95%で数値指標を上回った。 ・ただし、学年便りの簡素化など改善を図っていけるところがあるので、引き続き業務の効率化を図っていく必要がある。 A 【次年度の方針】 ・日課の見直しや、打合せと会議の抱き合わせ実施など可能な取組を次年度も継続していく。 ・夏休みの作品整理など、ボランティアの支援の幅を広げていくようにPTAや地域協議会にも募集を働き掛ける。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童（5・6年）・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ・中学生と合同のあいさつ運動や乗り入れ授業等を進め、学校園としての意識をもたせる。 ・今年度の6年生からは中学校でのSCとの面談が可能となるため、中1ギャップへの対策も含め、積極的に活用を促し、地域の教育力を生かしていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が90%、教職員が95%、地域が100%で数値指標を上回ったが、保護者が83.1%で下回った。 ・保護者の肯定的回答は市全体と比べると2.4ポイント高く、保護者は小中連携に対して関心が高いので、さらに改善の余地があると思われる。 B 【次年度の方針】 ・引き続き、6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の教職員と情報交換を密に行うように努める。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が 92.2%、教職員が 100%、保護者が 89.6%、地域が 100%で数値指標を上回った。 ・スクールガードや保護者と連携した通学路の点検、登下校の見守り等を継続・実施し、児童の安全を確保に努めてきた。 ・地域学校協働活動推進員やPTA役員を通して、可能な限り教育活動の充実を図ることができた。
5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・「宇都宮学」を含めた総合的な学習の時間の指導計画を見直し、地域教材を有効に活用していくことができるようにする。 ・収穫祭や昔遊び体験、施設巡りなど、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。	A 【次年度の方針】 ・収穫祭や昔遊び体験、施設巡りなど、地域との連携を図りながら、児童にとって有意義で充実した活動を継続、実施していく。 ・来年度は新たに、近隣の工場からの派遣授業として、5年の家庭科での「味噌づくり」やLRT開通に伴い、LRTについての総合的な学習の充実にも努める。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・学校での安全に関する活動を保護者や学校施設利用者に知ってもらえるように、事前に周知徹底を図り、未然防止に努める。 ・以前行っていた七三歩きや折り鶴プロジェクトなどを実施することで、室内での事故発生を防ぐ。また、さらに連絡網やHPなどを活用し、地域や保護者へ発信する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 100%、保護者が 92.6%、地域が 100%で数値指標を上回った。 ・今年度も校庭の遊びの決まりを見直し、周知を図ったり、保健委員会が、校内のけがや事故の発生場所についてまとめた「けがマップ」を作成したりして、児童と共に校内の安全管理に努めた。 【次年度の方針】 ・肯定的回答が目標を大きく上回っており、今後も継続した取組を行う。 ・教職員の安全に対する意識を高めるために、職員打合せ等で気になっている事案を取り上げて、話し合いのもと改善を図り、全教職員で共通理解していく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・各教科において、児童一人一人が常にタブレットを活用できる体制を整え、ICT支援員を有効に活用し、授業の充実にも努める。 ・調べ学習だけでなく、ペア・グループ学習でもタブレットを活用し、話し合いによって深い学びになるように努める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 95%で数値指標を上回った。 ・全教職員が、タブレットを活用して授業を展開できた。 ・授業の中で、調べ学習だけでなく、ペア・グループ学習でもタブレットを活用し、話し合いによって深い学びにつながるように努めた。 【次年度の方針】 ・肯定的回答が目標を大きく上回っており、今後も継続した取組を行う。 ・全職員で、タブレットの有効活用を考え、効果的な取組を互いに共有するなどして、各クラスですぐに授業に生かせるように努めていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○常時指導を強化するとともに、状況を鑑みながら児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ・「手のひらあいさつ」に込められた意味、意義を周知し直し、活動の浸透を図る。 ・スクールガードリーダー等、地域の方に挨拶や会釈等ができるよう、班長会議を機会に具体的な場面を想像させた指導を行う。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が92.2%、教職員が95%、地域が92.9%で数値指標を上回ったが、保護者が81.8%で下回った。 ・「手のひらあいさつ」は浸透し、校内での児童の挨拶はできる児童は多い。 ・地域学校園でのあいさつ運動をしっかりと行うことができた。 【次年度の方針】 ・取組を継続して行い、元気な挨拶ができるよう促す。 ・保護者に「手のひらあいさつ」の意味を周知し、学校内で行うものであること等を発信する。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、児童の望ましい行動や、よくできたことを称賛する機会を日常的に設ける。 ・学校教育目標と関連を図って週的生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・キャリアパスポートを活用し、自分の学習や生活を振り返る機会を確保するとともに、実態を把握し必要な指導を行う。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が93.7%、教職員が95%、保護者が93.9%、地域が100%で数値指標を上回った。 ・「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」等を利用して指導を行うことができた。 ・年度当初にさくら連絡網で配信をし、保護者にも「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり等の周知を図った。 【次年度の方針】 キャリアパスポートを活用し、自分の学習や生活を振り返る機会を確保するとともに、実態を把握し必要な指導を行う。 ・帰りの会等の機会に、児童の望ましい行動等を称賛する。
	B3 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値目標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返し週間」を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、児童が87.1%、教職員が95%、で数値指標を上回ったが、保護者が70.5%で下回った。 ・保護者の肯定的回答は、80%にいかなかったが、昨年度の数値より上回った。 ・「カテ学ふり返し週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、子どもに合った内容を自主的に取り組めるように支援した。 【次年度の方針】 ・宿題を毎日行う習慣を身に付けさせるよう工夫する。 ・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返し週間」を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。

	B 4 教職員は清央 PRIDE を胸に、信頼される学校づくりに向け、協働して教育活動に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し、校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が 100%、で数値指標を上回った。 ・道徳のローテーション授業は、学年の児童の様子を知るきっかけとなり、また、教材研究の時間短縮になるなど、業務改善にもつながっている。 ・授業づくりや、指導法について意見を交わすことによって授業改善につながることができた。 【次年度の方針】 ・学校課題の研究のねらいを明確にしながら協働的な探究の姿勢で研究を進める。 ・各種調査の結果を分析し、検討することで、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。
--	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・児童の評価では、全ての項目で8割以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感が高い水準を維持していると思われる。

○A17「学校は小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」の項目では、保護者の肯定的回答は、目標数値指標には満たなかったものの、市全体の肯定的割合を上回っている。児童・教職員・地域住民の肯定的回答は9割を超えている。今後も継続して小中学校の教職員と情報交換を密に行うように努めると共に、保護者への情報発信に努めていく。

○B1「児童は時と場に応じた挨拶をしている。」の項目では、保護者の肯定的回答は、数値指標には満たなかったものの児童・教職員・地域住民の肯定的回答は9割を超えている。今後も引き続き、地域学校園でのあいさつ運動や児童の主体的な活動を推進し、取組の実態を情報発信していく。

・A7「児童は宇都宮の良さを知っている。」の項目では、児童、教職員、保護者の肯定的回答の割合が、昨年度よりそれぞれ3ポイント以上向上し、市全体の平均を上回っている。「宇都宮学」の学習において、総合的な学習「夢チャレンジ清原学」を中心に地域の教材資源等を活用した学習活動を更に充実させるとともに、清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるよう指導を工夫していきたい。

・A9「児童は持続可能な社会について関心をもっている」の項目では、児童、教職員の肯定的回答の割合が、市の平均より2ポイント程度下回っている。回答の状況を細かく見てみると、全体的には8割に達しているが、9割には達していない学級がある。今後、授業や職員研修等の機会を通して持続可能な社会に向けての具体的な取り組みを紹介したり、実施した活動が何につながったのかを明確にしたりするなどして、共通理解を図っていく。

・A18「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の項目では、教職員、児童、保護者、地域住民の全てで肯定的回答の割合が昨年度より上回った。今年度からようやくコロナ禍も明けて様々な学校行事や学習活動等が通常とおり実施してきた。今後も、踏襲するのではなく、工夫を凝らしながら諸教育活動をより充実させていけるよう努めていきたい。

7 学校関係者評価

・あいさつに対する児童・教職員・保護者・地域の意識の違いがあるのではないかと。児童が主体的にあいさつできるようになるためには学校や地域だけでなく、保護者の協力も欠かせない。

・いじめに対する教職員と保護者の感じ方の違いに差があると感じた。一つ一つ丁寧に学校側が対応して、保護者に理解してもらうことが大切である。

・授業参観時に、廊下に飾られている児童一人一人の絵画が、色彩や表現が素晴らしく、成長を感じた。のびのびとした生活をしていると感じ、これからも個性を大切に教育をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気がある。」の項目では、児童の肯定的回答が市の平均を 1.1 ポイント下回っているが、95.2 ポイントと高評価を得ている。教職員、保護者、地域住民の肯定的回答の割合は、市全体の平均を上回っている。今後も、学校行事や児童会活動等で一人一人の児童が主体的に活動できる場を設定し取組を工夫していくとともに、全教職員で個に応じた支援を継続していくことで、更に自己肯定感や自己有用感を高めていけるようにしていきたい。

○学習面については、モジュール学習の実践を工夫し、個別最適な学びを充実させるとともに協働的な学びの場を意図的に設定することで、思考・表現する時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が意欲的に学習に取り組めるようにしていきたい。また、様々な思考的なツールを活用することで伝え合う方法を工夫したり、ICT 機器等のより一層の有効活用を図ったりしていきたい。

○生活面については、「望ましい挨拶の習慣化」に関して、保護者や児童の肯定的評価の割合が徐々に高まってきている。「自ら進んで挨拶をする望ましい態度」を身に付けていけるよう、本校の特色である「手のひらあいさつ」を継続しつつ、児童の主体的な挨拶を促していきたい。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求めていきたい。

・「夢いっぱいプロジェクト」については、「夢」の捉え方や活動の意義を再確認し、児童一人一人が目標達成に向けて意欲的に活動に取り組めるよう、具体的な目標設定についての助言や、称賛、励ましの声掛け、一人一人の頑張りを認める場の設定など工夫し、昨年度と少し方法を変えて、定期的ではなく児童がいつでも書きたいときにすぐ記入できるように、より主体的に取り組めるような対策を考えていきたい。また、学校の取組を保護者や地域に継続して情報発信し、理解を得られるようにしていきたい。

・「いじめ」や「不登校」の問題に関しては、地域や保護者の関心も高く、学校でも問題の早期発見・解決や未然防止に努め、マニュアルを見直し、組織的に対応している。関係機関や保護者、地域との連携も重要であり、地域協議会や学級学年懇談会等の機会を利用し、必要な情報については共有しながら、いじめ防止やいじめの早期解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていきたい。また、コミュニケーション力や友達と望ましい関係を築く力を身に付けさせていくことで、いじめ防止にもつなげていきたい。